

I 令和5年度 事業計画書

1 内外経済の現況

新型コロナウイルス感染症の蔓延で失速傾向が続いた日本経済であるが、2022年10月以降は収束傾向で、水際対策の緩和によって経済の景気回復が見られる。2022年10～12月期には、個人消費が下方修正されたことが背景となって実質GDP成長率が前期比年率+0.1%から下方修正されたものの、景気は緩やかに持ち直しているという見方は変わっていない。2023年以降は、経済活動の正常化が一段と進むことにより、サービス分野のリバウンド需要を中心に景気が回復するとみられている。コロナ感染を警戒した消費活動の自粛が薄れることにより、個人消費の回復は続く見通しである。

また、水際対策が大幅に緩和されたことを受けて、インバウンド需要に本格回復の兆しがみられる。訪日外国人は2023年末には年率換算で2,000万人を超える水準まで回復すると見られている。円安の影響で1人当たりの旅行消費単価も増加しており、2023年のインバウンド消費額は3.1兆円となり、名目GDPを0.4%程度押し上げると試算されている。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化は、エネルギーや原材料価格の高騰に繋がっており、記録的な物価高をもたらし、生活への影響が続いている。物価上昇が経済に与える影響については楽観を許さない状況であり、円安環境の動向と併せ国内経済への影響を注視していく必要がある。

2 真珠業界の取り組み

我が国の養殖真珠は、香港を販売拠点として、香港ジュエリーショーを中心に販売活動が行われていることに今も変わりはない。海外バイヤーの日本産アコヤ真珠への関心は依然として高いものがあり、日本産アコヤ真珠の「品質の良さ」や「品質への信頼」が再認識されている。一方、アコヤガイ稚母貝の大量への死問題の長期化、挿核貝の不足状況の発生は真珠の需給構造をアンバランスなものとしている。その結果、浜揚価格や卸売価格の単価は高騰しており、消費者の購買力が末端価格の上昇に追いつけるかが気になるところである。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延が峠を越え、渡航制限が緩和するに伴い、インバウンドの増加、世界経済の回復が期待される。新型コロナウイルス感染症の収束傾向が見られる中、香港での国際展示会が再開され、真珠取引の安定化、需給環境の改善が期待される。

こうした貿易環境下においては、これまで以上に「安心、安定、信頼」をモットーとして「品質の向上」「環境への配慮」「イメージアップにつながるPR」「イメージダウンを避ける施策」を生産者、流通業者一体となって取り組むことがますます重要になると思われ、これを将来の生産発展につなげてゆくことが大切であると考える。

日本真珠振興会としてはこれらの点を重視して、今後とも生産技術の向上のために、様々な支援を実施するとともに、国内市場に向けては消費者に正しく真珠を理解してもらえようとするための努力や、世界に向けては、日本産品の積極的な広報活動をしてゆくことが必要と考えている。このことを目標に据えて、真珠振興法発布以降、水産庁補助事業をいただくことで業界が一体となった取り組みを推進している。この事業では、「真珠産業連携強化協議会」並びに「生産開発部会」、「販売・マーケティング部会」、「輸出拡大戦略部会」の3部会を設置して、今年度も行動計画に則って真珠産業の課題解決に向けて取り組む。

また、令和4年10月に農林水産省「農林水産物・食品輸出促進対策事業」における認定輸出促進団体の指定を受け、我が国の真珠産業が高い国際競争力を獲得・維持すべく様々な事業に尽力する所存である。そして、内外経済の現況及び真珠業界の置かれた状況を踏まえて、今後の真珠業界の再生と振興のため、以下の事業活動を実施していくこととする。

3 重点目標

上記1及び2に述べた情勢の下、我が国の真珠産業の維持・発展を目指して、本年度の重点目標を以下のとおり定め、事業活動を実施するものとする。

(1) 実施事業等会計

① 市場開拓及び需要拡大等支援事業

ア 展示会等への出展による市場開拓・需要拡大事業

国内の宝飾展において、パネルの展示やDVDの放映による日本産アコヤ真珠のPR、真珠検定の説明相談会、高品質日本産アコヤ真珠の展示等を行う。また、香港等海外で開催される宝飾展においても真珠のすばらしさをPRし、中国人バイヤー等外国の人々に対し、日本の真珠への理解を深める。また、審議の上、団体等が実施する宝飾展の出展を支援する。

イ 地域活性化事業

各地区で行われる真珠に関するイベント等の協賛やPR活動への支援を審議の上、行う。

② 品質向上及び供給安定化等支援事業

ア 品質向上事業

・ 品評会関連

全国真珠養殖漁業協同組合連合会と共同で、全国真珠品評会、全国花珠真珠品評会を開催する。また、各地域で行われる品評会についても審議の上、支援する。

・ 養殖技術向上関連

変動の激しい自然環境の中で生産するアコヤ真珠の品質向上を図るために、審議の上、各団体等の事業に支援する。

・ 新技術・新基準関連

各団体等の新技術に対する取組に、審議の上、支援する。

また、真珠の生産が国際的に広がる中で発生する各種の問題に対処するため、必要に応じて国際会議等にも専門家を派遣する。

(2) その他会計

① 真珠検定事業

曖昧だった真珠についての価値基準や諸説を整理し、真珠の美しさをより多くの人々に伝えることを目的として、本年度も真珠検定事業を実施する。①有資格者主体のプロモーション全国展開②販売員の資格取得者の増加③一般消費者への真珠興味喚起に取り組み、さらにはB to C オンラインパールフェアの実施や在日中国人向け中国語版真珠検定講座の開始にも取り組む。

② 普及啓発事業

日本の特産品である真珠の持つ多面的な価値を広く普及・啓発するために、一般消費者からの質問、相談に対応するとともに、雑誌の有する普及啓発効果を再認識して、特別企画の掲載や新聞等のメディアによる広報宣伝、ホームページの活用、マーケティング事業、環境配慮に関する取り組み等幅広く実施する。

また、一般社団法人日本ジュエリー協会との間で設置している「真珠連絡会」を継続させ、連携して市場調査、販売促進、教育・育成、消費者対策等を進める。

③ 真珠産業海外展開強化事業の推進

この事業は、真珠振興法の成立を受けて、平成29年度に国の新規事業として予算化された「真珠養殖業等連携強化・成長展開事業」、平成31年度・令和元年度から開始された「日本真珠国際競争力強化推進事業」に続いて、令和4年度から開始される後継事業である。ここでは、前事業が推進してきた真珠の生産から市場・流通・販売に至る各層が連携を強化する理念を継承する。

また、引き続き「真珠産業連携強化協議会」、専門部会として「生産開発部会」、「販売・マーケティング部会」、「輸出拡大戦略部会」を設置して、前事業において立案した行動計画に則り、真珠産業の振興を図っていくものとする。また、行動計画検討に必要な資料収集・分析、データベース化等を行うとともに、真珠養殖業等の次世代を担う人材を認定し、その活動に要する経費を助成していく事業を引き続き実施していく。事業の実施にあたっては、国の定額予算に自己負担を加算することにより、引き続き我が国真珠産業の国際競争力の強化を図るものとし、高い優先度をもって取り組む。

④ 農林水産物・食品輸出促進対策事業の推進

この事業は、農林水産省が令和10年度に農林水産物・食品の輸出額を4兆円に増やすべく取り組むものであり、真珠は重点24品目に指定された。また、令和4年10月に認定輸出促進団体に指定され、これまで以上に輸出活動を強化すべく取り組むことになった。このことを受け、真珠振興会では真珠産業連携強化協議会の中に設置している「輸出拡大戦略部会」の機能を強化することで取り組んでいくこととしている。

令和5年度は、事業として「アメリカ東海岸地域における真珠に係る消費者動向調査」、「主要宝飾店を対象とする定点観測調査」、「第3回ジャパンパールフェアの開催(11/13~15)」、「商談会運営を支援する入札システムの開発」、「日本産アコヤ真珠の持続可能性に関するPR事業の実施」、「生残率が高く品質の良い真珠を作るアコヤ母貝養殖の実証試験」、「イタリア・ピアチェンツァ国際宝飾展でのプロモーション事業(9/8~12)」など7事業を実施し、日本のアコヤ真珠の国際競争力向上、輸出増大に寄与する。

(3) 法人会計

総会及び理事会において、振興会の活動について活発な審議・検討を行い、振興会の重要事項の決定を行うとともに、振興会の事業と活動の全般にわたり、積極的な対応を行うための各種振興対策を推進するために「真珠振興議員連盟」との連携強化を図る。

会員相互の意思疎通を図り、定款の目的に沿って真珠業界全般のために振興会の運営と事業活動の円滑な推進を図る。